

表5 S P F 豚群の検査及び処置

令和2年2月5日（告示第231号）一部改正  
 令和2年6月30日（告示第1246号）一部改正

病 原 体	供試抗原 <sup>1)</sup>	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処 置
		時 期	頭 数		
豚アデノウイルス	三重	3か月毎	群5頭又は10%のいずれか多い頭数	SN	抗体陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
日本脳炎ウイルス	中山	〃	〃	HI	〃
豚ゲタウイルス	神奈川 Haruna	〃	〃	HI ELISA	〃
豚サーコウイルス		〃	〃	IFA	〃
オーエスキュー病ウイルス	Shope Sullivan	〃	〃	ELISA フェックス凝集	〃
牛ウイルス性下痢ウイルス	Nose	〃	〃	SN	〃
豚熱ウイルス	ALD-A76	〃	〃	ELISA	〃
脳心筋炎ウイルス		〃	〃	SN	〃
豚赤血球凝集性脳脊髄炎ウイルス	HEV-67	〃	〃	SN	〃
豚伝染性胃腸炎ウイルス	TO-K	〃	〃	SN	〃
豚サイトメガロウイルス		〃	〃	IFA	〃
豚流行性下痢ウイルス		〃	〃	SN	〃
豚エンテロウイルス(豚デシオウイルスを除く)		〃	〃	SN (A:PEV-9UKG/410/73、B:PEV-8V13)	〃
豚インフルエンザウイルス		〃	〃	HI (H1N1, H1N2, H3N2)	〃
豚パルボウイルス	90HS-SK	〃	〃	HI	〃
豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス	Lelystad	〃	〃	ELISA	〃
豚ロタウイルス	S-80	〃	〃	SN	〃
マイコプラズマ	ハイオニューモニエ	〃	〃	ELISA	〃
豚赤痢菌		〃	〃	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ローソニア イントラセルラーリス		〃	〃	臨床症状	〃
マイコバクテリウム アビウム-イントラセルラーレ	マイコバクテリウム アビウム2	〃	〃	ツベルクリン反応	抗体陽性群・同居群 全殺
アクチノバシラス・ブルニューモニエ	型SHP-1	〃	〃	AGG	〃
ボルデテラ ブロンキセプチカ	H-16	〃	〃	AGG	〃
ブルセラ	メリテンシス	〃	〃	CF	〃
豚丹毒菌	多摩96	〃	〃	フェックス凝集	〃
パスツレラ ムルトシダ		〃	〃	菌分離	陽性群・同居群 全殺
レプトスピラ		〃	〃	臨床症状	〃
サルモネラ		〃	〃	菌分離	〃
トキソプラズマ		〃	〃	色素試験	〃
豚デシオウイルス <sup>4)</sup>					
アフリカ豚熱ウイルス <sup>4)</sup>					

口蹄疫ウイルス <sup>0</sup>					
豚水疱疹ウイルス <sup>0</sup>					
狂犬病ウイルス <sup>0</sup>					
豚痘ウイルス <sup>0</sup>					
豚水疱病ウイルス <sup>0</sup>					
水疱性口内炎ウイルス <sup>0</sup>					
牛疫ウイルス <sup>0</sup>					
ニパウイルス <sup>0</sup>					

注 豚の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した豚については病理組織学的検査等を行う。

- 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
- 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 S N : 血清中和試験 I F A : 間接蛍光抗体法  
A G G : 凝集反応 ゲル沈 : 寒天ゲル内沈降反応 C F : 補体結合反応
- 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。
- 4) 国内で発生がない（又は重要度が低い）ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。